

2025年1月15日

学部生・大学院生 各位

国際教育交流課

スタンフォード日本センターでの英語講義受講生  
【2025年春学期生】募集について（追加募集）

スタンフォード日本センターStanford Japan Center(以下 SJC)は、米国スタンフォード大学が運営する教育機関です。同志社大学今出川キャンパスにあり、例年、スタンフォード大学から約 35 名の学部生が参加し、講義は日本の政治、経済、宗教、文化、科学等、幅広く網羅されており、スタンフォード大学本校から赴任する教授や関西の諸大学の研究者が講義を担当します。文系理系を問わず参加できます。

京都に居ながら、米国本校で提供されるのと同等の講義を受け、米国の大学生と共に学んで交流し、米国留学を疑似体験できる貴重な機会です。

下記の通り、SJC が提供する英語講義の受講を希望する京都大学学生を募集します。

※本講義は審査のうえ、所属学部・大学院から単位として認定される場合があります。詳細は「5. 諸留意点」の(6)を参照してください。

記

1. 募集要項：

講義はすべて英語で行われます。米国の学生と同様の課題が課せられ、講義への積極的な参加が求められます。登録者は京都大学の代表としてスタンフォード大学の講義に参加します。参加決定後の受講取り止めや無責任な欠席は認められませんので、よく考えた上で応募してください。

(1) 募集人数：4名程度（1講義につき本学学生の参加は2名程度とする。）

(2) 応募資格：

- ① 2025年度前期に本学に在籍する学部生・大学院生（休学中の者は応募不可）
- ② TOEFL iBT 79、TOEFL ITP 550 又は IELTS 6.0 以上の英語能力を有する者
- ③ 日本及び日本語に関する相当の知識を有する者
- ④ 受講希望科目についての基礎知識を有する者

2. 日程（※参加必須）：

- ・応募締切：2025年2月19日（水）正午
- ・面接※：2025年2月25日（火）12：15～13：05※オンラインで実施
- ・合格者説明会※：2025年3月27日（木）12：15～13：05 又は  
2025年3月28日（金）12：15～13：05 のいずれか1日※対面で実施

- 
- ・ SJC オリエンテーション※ : 4月2日(水) 9:00~11:30
  - ・ SJC 授業期間 : 2025年4月3日(木) ~6月11日(水)
  - ・ SJC テスト期間 : 2025年6月12日(木)

3. 費用: 受講料は無料です。教科書・参考書の費用は受講生各自が負担してください。

4. 応募方法: 応募はオンライン申請及び国際教育交流課への応募書類原本の提出が必要です。  
「KCJS/SJC 応募方法・手順について」に従って手続きしてください。(「KCJS/SJC 応募方法・手順について」は KULASIS 全学生向け共通掲示板から、「SJC」で検索し、掲載ページの添付ファイル内から入手できます。) また、申請書、推薦書のワード版は、京都大学ウェブサイトからダウンロードできます。

#### 5. 諸留意点:

- (1) 講義は SJC (同志社大学今出川キャンパス内明德館) で行われます。
- (2) 受講期間中は、以下の保険に加入必須です。
  - ① 学生教育研究災害障害保険
  - ② 学研災付帯賠償責任保険 (※留学生の場合は学生賠償責任保険)
  - ③ 学生総合共済 (生命共済)
- (3) 今学期に提供される科目は、別紙「授業概要」の通りです。この中から希望の科目を選んで応募してください。
- (4) 京都大学及び SJC の書類、面接等による選考を経て許可を得た者のみ受講できます。
- (5) オリエンテーション~授業期間終了までの間に就職活動中の場合は、原則として申請を避けてください。
- (6) 科目登録・単位認定に関する注意事項 :
  - 1) 本講義は、2025 年度前期科目\*です。大学が一括して履修登録を行いますので、KULASIS 等への登録手続は不要です。  
(\*所属学部・研究科によって単位認定時には前期・後期の区別がない場合があります)
  - 2) 単位認定について
    - ① 本講義受講にあたっては、単なる聴講は認められず、必ず単位認定審査をする必要があります。
    - ② 参加が決まった学生は、所属学部・研究科に単位認定の審査を申請することになります。詳細は合格者説明会で説明しますが、各学部・研究科により 2025 年度前期科目の単位認定事前申請の締め切り日が合格者説明会よりも前に設定される場合もありますので、応募の際は、各学部・研究科教務担当窓口にて単位認定事前申請締め切り日を確認し、必ず申請できるように準備してください。また、面接後に合格者宛に詳細をメールでご連絡しますので、申請方法についてはメールをご確認ください。
    - ③ 単位として認められる場合は、(1) 所属学部・研究科の単位、(2) 全学共通科目の単位のいずれかとなりますが、学年、所属学部・研究科により異なります。
    - ④ SJC から単位は付与されません。

- 3) 2025 年度前期に本科目と他科目との時間割が重複した場合は、いずれか一方の履修しかできません。重複がないかを確認するため、授業登録情報 (KULASIS) のコピー提出が必要です。
- 4) 履修を学期途中で取りやめることはできません。
- (7) SJC 及び KCJS (京都アメリカ大学コンソーシアム) の英語講義の受講経験者も応募できます。ただし、受講経験のある講義には応募できません。

※受講経験者の感想を以下の URL に掲載していますので、参考にして下さい。

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education-campus/student-3/class/kcissic/sjc-hokoku>

(京大 HP > 教育・学生支援 > 海外留学を希望する京大生へ>京都で学べる英語の授業>KCJS/SJC 講義の受講 > SJC 参加報告書)

<参考>

SJC (旧 SCTI) は、米国スタンフォード大学の日本留学プログラムとして 1990 年に誕生しました。日本との関わりを持つ上で必要となる知識・資質を身につけたアメリカの若い世代の育成を目的としています。参加学生の専攻は工学、自然科学、経済学、政治学、国際関係学等多岐にわたっていますが、技術系専攻の学生が多いのが特徴です。日本語教育にも力を入れており、来日前にはスタンフォード大学本校において日本語授業の履修が義務づけられている他、来日後は毎週 8 時間の日本語の授業が必修科目となっています。2006 年夏より同志社大学内に拠点を定めています。

所在地：京都市上京区今出川通烏丸東入玄武町 601 同志社大学明德館 2 階

【本件問合せ先】 国際高等教育院 河合淳子 教授・若松文貴 准教授

国際・共通教育推進部国際教育交流課海外留学掛 滝本

Tel: 075-753-5407 Email: [kcjs-sjc.kyodai@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp](mailto:kcjs-sjc.kyodai@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp)

## KCJS/SJC 英語講義 応募方法・手順について

下記の **1** ~ **3** を、応募締め切りまでに済ませてください。

- 1** 以下のデータ①②を準備し、スキャンまたはダウンロードしてデータを作成する。  
ファイル名は、①を「写真\_氏名」、②を「スコア\_氏名」とすること。

①写真（胸から上を収めたもの）

②英語能力のスコア

※提出されたスコアは本学の統計資料として利用する事があります。ただし、教育・研究目的のみに利用され、個人情報<sup>が</sup>他へ漏れることは一切ありません。

- 2** オンライン申請で登録する。（注：印刷が可能な環境で申請を開始すること）

(1) 申請画面にアクセス

★オンライン申請画面 URL （注：http ではなく https です）

<https://area34.smp.ne.jp/area/p/nita0mjmel1pepbt9/hbbQ7J/login.html>

ログイン ID : tankihaken\_1704

パスワード : N9St1K

- (2) 入力画面へ進み、**1** の①、②をアップロード（①：提出書類 1、②：提出書類 2）  
(3) 参加申込書を印刷、署名

- 3** 国際教育交流課窓口へ下記書類の原本を提出する。

- ・参加申込書（オンライン申請後に印刷、署名したもの）
- ・所定の申請書
- ・所定の推薦状（指導教員の署名必須）

- 4** KCJS/SJC 受講期間中の京都大学での時間割が確定次第、授業登録情報のコピーを国際教育交流課へメールで提出する。

※KULASIS のスクリーンショットでも可。ただし、氏名が表示された画面を提出すること。

## Stanford Program in Kyoto Course Offerings – Spring Quarter 2025

各クラスの講義の時間は、以下の通りですが、フィールドトリップが講義時間外（平日、週末含む）にも実施される予定です。フィールドトリップの日時の確定は、学期開始後となります。

### **1. Instagramming Kyoto: Tourism and Social Media in the 21st Century by Associate Professor Angele Christin** **Monday, 3rd (13:10-14:40) AND 4th (14:55-16:25)**

This course examines how social media use interacts—and sometimes conflicts—with local institutions, norms, and values. We focus on the case of Kyoto, one of the world's premier tourism destinations, which is currently seeking to minimize "tourism pollution" in relation to digital media and "selfies." Drawing on readings from digital studies, sociology, and communication, the course asks: what happens when tourists overwhelmingly document their trips and experiences in Kyoto on social media platforms? How do these activities affect the local environment and social norms? What are some of the unintended consequences of social media activities, and how can we mitigate them in the case of tourism?

As part of the course, the students will conduct qualitative interviews and observations with tourists in Kyoto. Course elements will include participating in class discussions, writing short papers, and delivering a presentation in class (subject to change). The course will provide an overview of the economic, political, and cultural forces driving the creation of Japanese media content. Equipped with this framework, students will then be asked to pick samples of Japanese media and explain how markets, politics, and culture shape the form and content of what they've chosen to examine.

Professor Angele Christin is an Associate Professor in the Department of Communication at Stanford University. Prof. Christin studies how algorithms and analytics are changing work practices, expertise, and organizations. Using ethnographic methods, she has examined a range of sites, including web journalism, criminal justice, AI ethics, and social media creation.

Her award-winning book, [\*Metrics at Work: Journalism and the Contested Meaning of Algorithms\*](#) (Princeton University Press, 2020) focused on the case of journalism, analyzing the effects of audience data in web newsrooms in the U.S. and France. It shows how American and French journalists made sense of traffic numbers in different ways, which had distinct effects on news production in the two countries.

Prof. Christin received her PhD in Sociology from Princeton University. She is also a co-editor of the Princeton Studies in Cultural Sociology at Princeton University Press.

**2. Contemporary Religion in Japan's Ancient Capital: Sustaining and Recasting Tradition by  
Professor Catherine Ludvik  
Tuesday, 3rd (13:10-14:40) AND  
Wednesday, 3rd (13:10-14:40)**

This course explores contemporary Japanese attitudes to religion and popular forms of religiosity. The syncretic nature people's beliefs and practices, often described as a combination of Shinto and Buddhism, draws on a vast variety of interwoven concepts, beliefs, customs, and religious activities of native Japanese, Korean, Chinese, and Indian origins. Against this complex historical background, we will examine various aspects and expressions of contemporary Japanese religion, including the pursuit of worldly benefits, religion and healing, fortune-telling, the popularity of ascetic practices and practitioners, pilgrimage, the enormous appeal of festivals (matsuri), new religions and their image, the impact of the internet on religion, and the response of religion in times of crisis, such as natural disasters. Drawing on Kyoto's rich religious landscape of temples and shrines as well as its busy calendar of vibrant ceremonies and festivals, classes will be supplemented with organized field trips, and student assignments will be based both on readings as well as site visits.

As part of the course, students will have the opportunity to take part in several exciting field trips to various temples/sites in and around Kyoto both during the regular class hours as well as outside.

Prof. Ludvik obtained a Ph.D. at the University of Toronto in the Centre for the Study of Religion and teaches Japanese religion, visual arts, culture and history at Doshisha University and Kyoto Sangyo University. Spanning Indian and Japanese religions and their visual arts, her research interests focus on the metamorphoses of originally Indian deities in texts, images and rituals of Japan, as well as on ascetic practices and pilgrimage. Prof. Ludvik is the author of *Recontextualizing the Praises of a Goddess* (2006) and *Sarasvati, Riverine Goddess of Knowledge* (2007). She is currently researching the goddess Uga-Benzaiten and the Shikoku Henro pilgrimage. She has taught courses on Japanese religion, visual arts and gardens on the Stanford Program in Kyoto since 2001.

◆ 講義時間割 ◆

スタンフォード日本センター2025年 春学期  
(2025年4月3日～2025年6月12日)

	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
1					
2					
<b>LUNCH BREAK</b>					
3 13:10 - 14:40	Instagramming Kyoto: Tourism and Social Media in the 21st Century  by Associate Professor Angele Christin	Contemporary Religion in Japan's Ancient Capital: Sustaining and Recasting Tradition  by Professor Catherine Ludvik	Contemporary Religion in Japan's Ancient Capital: Sustaining and Recasting Tradition  by Professor Catherine Ludvik		
4 14:55 - 16:25					
5 16:40 - 18:10					

- ・同一科目が1週間に2回ある場合は両方の講義に出席する必要があります。片方だけの講義出席は認められません。
- ・期間中、各講師の都合によりクラス時間の変更等が生じる場合があります。
- ・金曜日・週末にはクラスのField Tripが行われる場合があります。

# 受講申請書

スタンフォード日本センター (SJC) 2025 年春学期

学部/研究科・学年	学籍番号	氏名
専門分野・関心のある領域		京大での指導教員名

## (1) 本学において履修した国際交流に関わる科目

外国語科目を除く英語で講義を行う E2 科目、その他国際交流に関わると考えられる科目について、科目名、成績を列記して下さい。※受講中の科目については「受講中」と記載すること。また KCJS/SJC の受講経験もすべて記入のこと (KCJS 第〇期〇年度 秋学期 等)。

--

## (2) 受講希望科目

- ・第一希望 (講義名: ) 曜日 ( ) 時限 ( )
- ・第二希望 (講義名: ) 曜日 ( ) 時限 ( )

※どちらかに✓して下さい

1 科目だけの受講希望 /  可能であれば 2 科目受講希望するが、1 科目だけでもよい

## (3) 志望理由

--

## (4) 面接日について

募集要項内-「2.日程」に記載の面接日程のうち、都合の悪い日時とその理由を記入してください。授業等の公的な理由 (アルバイト、部活動は不可) に限ります。全日程可の場合は無記入で結構です。

月 日 ( : ) ~ ( : ) (理由: )  
月 日 ( : ) ~ ( : ) (理由: )  
月 日 ( : ) ~ ( : ) (理由: )

※応募締め切り後、面接時間をメールで連絡します。メールの受信をよく確認して下さい。

